



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

透過性亢進型肺水腫の病態および防御に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 荒川, 迪生 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/116">http://hdl.handle.net/20.500.12099/116</a>

## は し が き

本報告書は、平成4年度から2年間にわたる「透過性亢進型肺水腫の病態および防御に関する研究」の研究成果に、前回の昭和57年度から2年間にわたる「熱とICGを用いた二重指示薬希釈法による肺血管外水分量の研究—肺静脈うっ血及び肺水腫に関する基礎的及び臨床的研究—」に関する研究成果も加味して、総説的に記載したものである。

肺水腫、とりわけ透過性亢進型肺水腫の代表疾患である成人呼吸窮迫症候群は重篤な疾患であり、その病態の解明、診断、治療の確立が急務である。我々は、イヌにアロキサンの経静脈的投与と経気道的投与とによる肺傷害を透過性亢進型肺水腫のモデルとして作成した。経静脈的投与による肺傷害では、活性酸素がアロキサン肺傷害の主な成因であり、活性酸素除去剤や蛋白融解酵素阻害剤はアロキサン肺傷害の防御に効果があることを解明した。経気道的—側肺投与による肺傷害では、他側肺にも傷害が及ぶ事実を明らかにした。

アロキサン肺傷害の電顕的特長は、血管内皮細胞や肺胞上皮細胞の傷害であることを明らかにした。

二重指示薬希釈法による血管外肺水分量の定量は、経静脈的投与による肺傷害では妥当であるが、経気道的—側肺投与による肺傷害では著しく過少評価することを明らかにした。

### 研究組織

研究代表者：荒川 迪生（岐阜大学医学部附属病院講師）

研究分担者：神原 健治郎（岐阜大学医学部附属病院助手）

### 研究経費

平成4年度	1300	千円
平成5年度	400	千円
計	1700	千円